フィンランドでの１年を振り返って

３年Ｇ組　R.I.　ロータリー青少年交換留学プログラム

８～９月

出発の時は、家族や友人から見送りをしてもらいましたが、自分は、今から１年間地元を離れる実感が沸かずとても違和感があったことを今でも覚えています。しかし、羽田空港に着いたとたん一気に希望、楽しみ、不安、悲しみ等の感情が湧き出てきて、最後に食べたご飯も喉を通りませんでした。そのあと無事に飛行機に搭乗し、１４時間の長時間フライトの末に、フィンランドに到着しました。到着後の合同オリエンテーションキャンプでは、周りの留学生の英語に全くついて行けず、どんどん不安な気持ちになりました。そんな中、キャンプ３日目に、新型コロナウイルスに感染してしまい、みんなと離れたコテージに隔離されました。ロータリーの方の説明では、水道水が飲めると聞いていたのですが、実際には濁った水が出てきました。飲める水が欲しいと頼んだら、喉が痛いのに大量の炭酸水を支給され、英語もほとんど通じない状態だったので、心身ともに疲弊していきました。更には最初にお世話になる予定だったホストマザーが、重い病気になって受け入れ不可になるなど、留学初期はトラブル続きで初めての海外生活への期待は無くなる一方でした。

１０～３月

しかし、無事ホストファミリーも見つかり、実際に生活を始めるとフィンランドの雄大な自然、自由な学校、人のやさしさに感動しました。ご飯は口に合いませんでしたが、どんどんフィンランドが好きになっていき、自分の想像をはるかに超えた最高な生活が待っていました。寒く、暗いフィンランドの厳しい冬は、少しきついこともありましたが、私はホストファミリーに厳しい冬を乗り越えるライフハックを教えてもらい乗り越えることができました。オーロラを見たり、友達とスキーをしたり、ラップランドツアーで犬ぞりや、トナカイぞりを体験したり、凍った湖の上を歩いて登校したりと毎日が驚きと興奮の連続でした。

３～７月

夏は、冬とは逆に常に明るく、気温も２５度前後で湿度も低く、最高の環境でした。冬が明けた事を喜び、湖で友達と泳いだり、ホストファザーとカヌーをしたりと、日本では感じることのできないうれしさを感じることができました。また、６月にはロータリークラブ主催のヨーロッパツアーに参加し、エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、ハンガリー、オーストリア、チェコ、ドイツの８カ国を２週間かけて周りました。 このツアーは、それ程差はないと考えていたヨーロッパの国々が、実は国ごとで全く違う文化、歴史、景観、食文化を持っていることを知ることができ、自分が持っていた世界観を一変させるような経験でした。

最後に

私はもともと楽観的な性格で、どんなつらいことがあっても「何とかなるさ」と今まで過ごして来ました。留学中もこの性格なら何でも乗り越えることができると思っていました。しかし、実際に渡航してみると、コロナの感染もそうですが、自分一人では解決できない、想像を超えるつらい出来事もありました。しかし私は、人にすごく恵まれ、重なる問題を乗り越えることができました。今では１年間を振り返ると楽しかった経験ばかりが、無限に思い起こされ、つらかったことを忘れてしまいそうになってしまう時もあります。

フィンランドでの生活は、今までの人生で最も充実していて、自分の世界観を大きく変えた一年間でした。これらの経験は自分だけではすることができませんでした。このプログラムへの応募を手伝ってくれた先生、私を受け入れてくれたロータリークラブの方々、現地での生活を支援してくれたホストクラブ、カウンセラーさん、ホストファミリー、両親等数えきれない多くの方々の協力でできたことです。この感謝、経験を忘れることなく、これからの人生で多くの場面で還元していきたいと思います。本当にありがとうございました。